

佳作

夢に向かって進め！ 私

岩手県二戸市立金田一中学校

1年 佐藤 なつ

私には夢がある。それは、「ラジオパーソナリティー」だ。なぜ、そのように思ったかという、たまたま見ていた動画や映画でラジオが流れてきたからだ。どのラジオを担当していたパーソナリティーさんも、とても楽しそうで聞いていた私まで元気をもらえた。そこで、私は決心した。私もあの人のような、人に元気や笑顔を届けられる、人の悩みによりそえる人になりたいと思った。そのために、私は自分で考えて、自分で判断して行動したり、自分だけではなく周りの人の気持ちも考えていかなければならないと思った。それが夢をかなえるために必要なことだと感じエネルギーになると感じたからだ。だが、今の私は、授業中に発言もできず、クラスを率先して引っ張っていけない。そして、私は自分のことさえ、自分の意見ではなく、友達の見解と一緒にしてしまっている。いつも、どうしてだろうと悩んでしまう。なぜ自分の意見ではなく友達の意見と一緒にしてしまうのだろうと自分を責めてしまう。友達の意見と一緒にするのが悪いことではないが私は「本当の自分」を出せていない。きっと、ラジオパーソナリティーさんは、自分の思ったことを、自分の本音を相手に素直に届けているからこそ、リスナーの私たちに届いているものがあるのだと思う。

そんな、率先していけない私を、頑張ろうと思わせてくれる、私のエネルギーになるような人たちがいた。それは、「家族」だ。家族は私の意見を聞いてくれる。私が迷ったときやうまくいかないときの少しの変化にも気付いてくれる。私が泣いていたら、隣で励ましてくれた。まさに、私のエネルギーだ。家族はいつも支えてくれて、自分のことのように思い私を励ましてくれた。その家族の姿は私があこがれるラジオパーソナリティーだった。家族といると安心する。いつも笑っていることができた。だから、これからは少しずつ、一つだけでもいいから「家族」という人のエネルギーを味方にして、自分を変えていきたいと思う。

だから、私はまず「自分の気持ち」を相手に伝えたい。自分の思ったことを言い、相手と違う意見になるのが怖くて、嫌われたくなかったから、私は「気持ち」を言わずにきてしまっていた。

そして、この間、私は勉強についていけるか不安で、習い事に集中していきたかったから部活に入らないことを決めた。だが、部活をやっているクラスの

子たちの、協力して部活をやっている姿を見て、とても楽しそうだなあと考えた。私も「入りたい」と思った。だけど、先生にも相談しづらく、もし、部活に入れても途中入部で悪口を言われてしまうのではないかといつものように悩んでしまった。だが、「今は今しかない」と思い、直接、言葉にできないなら、紙に書いて言葉にしてみた。返答がくるまでとても不安で手を握っていないと心臓が飛び出してしまうのではないかと思うほどドキドキしていた。すると、紙の端に、

「今度、直接くわしく話しましょう！」

という太陽が昇ったかのような明るい、温かい、うれしい返答が返ってきた。私は今まで知らなかった。気持ちを伝えるってこんなに安心につながるってことを。私も相手から本音で何か言ってもらえたりすると、とっってもうれしいし、気持ちを言いあえる仲間だって思う。この瞬間、私の中で勇気を出すことができた。これも、背中を押してくれた家族のエネルギーのおかげだと思う。そして、私もそれに答えることができた。これも、昔の私から一つ成長したことだと思う。きっと、この人のことを思うというエネルギーがあれば、どんな壁も乗り越えていける。このエネルギーをもっとたくさんの人に知ってほしい。

私は、今まで自分のことを「自分で決められない、自分の気持ちを出す——勇気を出すことが怖くて逃げている情けない自分」と思っていた。だが、「家族」という幸せなエネルギーを使って勇気を振りしぼることができた。だから、今の自分は「諦めず、一步でも何かを変えようと前進する自分」に変わることができた。だからこそ、「人に元気や笑顔を届けられ、人の悩みによりそえるラジオパーソナリティー」という将来の夢にも本気でぶつかっていきたい。そして、私のエネルギー「家族」を見て、また、一つ夢ができた。それは、「誰かの背中を押してあげられるような、誰かのエネルギー」になることだ。私も家族からの支えがあって勇気を出すことができた。そして、思いを言葉にして伝えることも学んだ。だから、私もたくさんの人に思いを届け、誰かの背中を押せるように、家族というエネルギーを味方に一緒に夢に向かって進んでいきたい。